

# 執筆要綱

1. 論文は和文または英文とします。英文の場合は、英語を母語とする外国人に校閲を受け、所定の校閲証明書を添付してください。
2. 原稿はすべて横書きとし、A4用紙を使用して、第2頁の表紙に本文の文字数および図表の個数を明記してください(原則として1行40字、1頁30行)。

図、表、写真はそのまま掲載できるものを送ってください。図は、墨または黒インクで清書したものとします。当方でトレースをした場合は実費を徴収します。

図、表、写真の挿入箇所を、本文原稿用紙の欄外に、図○、表○、写真○と朱書き記載してください。また、図、表、写真の説明は別の原稿用紙に一括して記載してください。

3. 原稿は以下の体裁で作成してください。

原著、総説、症例報告、短報、調査報告

第1頁:「論文題名」「論文種別」「著者(共著者)の姓名」「所属(科名まで)とその所在地」「筆頭著者の連絡先(住所、電話、FAX、e-mail アドレス)」を明記する。著者(共著者)名には振り仮名をつける。

第2頁:「論文題名」、「論文種別」および「本文の文字数および図表の個数」を明記する。

第3頁:論文の和文要旨を400字以内にまとめる。また要旨の次にキーワードを名詞形5個以内で記載する。

第4頁:「英文の題名」「著者(共著者)のフルネーム」「所属とその所在地」「200語程度の英文要旨」「5語以内の英語のキーワード」「筆頭著者の連絡先(住所、電話、FAX、e-mail アドレス)」を英語で記載する。

第5頁:「英文の題名」「200語程度の英文要旨」「5語以内の英語のキーワード」を記載する。

第6頁:本文は原稿の第6頁目から書き始める。

レポート「現場最前線」

第1頁:「論文題名」「論文種別」「著者(共著者)の姓名」「所属(科名まで)とその所在地」「筆頭著者の連絡先(住所、電話、FAX、e-mail アドレス)」を明記する。著者(共著者)名には振り仮名をつける。

第2頁:「論文題名」と「論文種別」を明記する。

第3頁:本文は原稿の第3頁目から書き始める。本文は、原則として、Ⅰ. はじめに、Ⅱ. 方法、Ⅲ. 結果・考察、にまとめて記載する。

行番号

本文には、各頁に頁番号と行番号を記載する。

利益相反、謝辞、文献、注の記載

本文原稿の最後に上記の順序で記載する。

利益相反関係がある場合は、関係する企業・団体名を記載する。また、研究費の補助を受けている場合、公的機関や私的企業の名称等を明記する。

記載例) ・開示すべき利益相反は存在しない。

・本研究は○○から資金提供を受けた。

・本研究は○○から実験装置／測定機器の提供を受けた。

・公的研究費を受けた場合は、下記を参考にその旨を記載してください。

例) 本研究は、日本学術振興会科学研究費、平成○年～平成○年○○研究(○)、課題番号○○、研究課題名○○、代表者○○、の資金を用いて実施した。

4. 外国語名(人名、薬品名など)は原語のまま用い、ワープロを使用するか、活字体で明記してください。ただし、日本語化しているものはカタカナ書きしてください。学術語はできるだけ訳語を用い、必要に応じて( )内に原語を入れてください。数字は算用数字を用い、度量衡単位は、m, cm, mm, cm<sup>2</sup>, ml, l, dl, kg, g, mg, などを使用してください。

5. 論文の文献は、本文に引用されたもののみとします。文献は、原著論文と症例報告については30個以内、短報、調査報告については15個以内とします。総説とレポート「現場最前線」については、文献数を特に指定しません。

・本文中に文献を引用する場合は、その個所の右肩に<sup>1)</sup>や<sup>1,2,5-7)</sup>のように記す。  
・引用した文献をまとめて文献一覧を作成し、本文文末に記載する。文献一覧は引用順に配列し、1), 2) …と通し番号を付す。

6. 文献一覧の書き方は統一し、外国雑誌は原則としてIndex Medicusに従って略号で記載して下さい。文献の著者が3名以内の場合は全員の名前を記載し、4名以上のときは最初の3名を記載し、残りは「…ら」、または「et al.」と記して下さい。著者間は英文の場合も&を入れずに、カンマで区切って下さい。

#### 〔雑誌の場合〕

著者名：論文タイトル。雑誌名、巻数(号数)；最初の頁-最後の頁、西暦発行年

例 1) 福岡達之, 川阪尚子, 野崎園子ら：嚥下障害患者に対する随意咳嗽の空気力学的測定と誤嚥の関連。言語聴覚研究, 8(3)；131-138, 2011

2) Naeser MA, Martin PI, Nicholas M, et al.: Improved picture naming in chronic aphasia after TMS to part of right Broca's area: An open-protocol study. Brain Lang, 93; 95-105, 2005

3) Max L, Yudman EM: Accuracy and variability of isochronous rhythmic timing across motor systems in stuttering versus nonstuttering individuals. J Speech Lang Hear Res, 46; 146-163, 2003

#### 〔書籍の場合〕

〈和書〉

著者名(訳者名)：論文タイトル。書籍名(編者名, 編)。版数, 出版社, 出版地, 引用頁, 西暦発行年  
訳本の場合は、著者名と訳者名の両方を記載する。訳者名は著者名の後ろに(〇〇訳)と書く。

例 1) 笹沼澄子, 綿森淑子, 福迫陽子ら：失語症の言語治療。医学書院, 東京, 52-75, 1993

2) 能登谷晶子：機能的聴覚障害。標準言語聴覚障害学—聴覚障害(中村公枝, 城間将江, 鈴木恵子編)。医学書院, 東京, 292-295, 2010

3) Basso A(武田克彦ら訳)：失語症—治療へのアプローチ。中外医学社, 東京, 202-222, 2006

〈洋書〉

著者名：論文タイトル。In：書籍名(eds 編者名)。Xth Ed., 出版社, 出版地, 引用頁, 西暦発行年

例 1) Goodglass H: Understanding aphasia. Academic Press, New York, 13-39, 1993

2) Heim S: The language production-comprehension network in functional imaging. In: Language-normal and pathological development (eds Riva D, Rapin I, Zardini G). John Libbey Eurotext, Montrouge, 51-60, 2006

2004年1月12日制定

2005年12月3日改訂

2012年4月1日改訂

2016年8月30日改訂

2018年6月23日改訂

2019年6月28日改訂

2021年6月27日改訂